令和８年度第１回東海市産業推進会議　会議録

１　日　時

令和８年（２０２６年）８月２１日（金）午後２時から午後３時３０分まで

２　場　所

東海市役所　５０１会議室（５階）

３　出席者

(1)　委員（敬称略）

野村淳一、大西　彰、浅井良隆、武内康一、岡本和恵、野口剛規、福尾潤一

(2)　事務局

芦原商工労政課長、礒谷商工労政課統括主任、浦東商工労政課主事

４　議　題

別紙次第のとおり

５　公開、非公開の別

公開

６　傍聴者の数

0 人

７　会議内容

(1)　あいさつ【次第　１】

芦原商工労政課長からあいさつ。

(2)　自己紹介【次第　２】

名簿順に自己紹介。

(3)　議題

ア　産業振興ビジョンについて【次第　３－(1)】

事務局から資料に基づき、説明。

イ　施策評価シートについて【次第　３－(2)】

事務局から資料に基づき、説明を行い、その後、質疑応答を行った。

大西委員：　推進項目１（４）主な取り組み「ふるさと納税」に関連して、東海商工会議所の取り組みについて情報提供したい。東海市の地域ブランドの構築を推進しており、ふるさと納税返礼品につなげていければと動いて

いる。会議所内でチーム構成し、今年度中に成果発表を行う予定。今後、注目してほしい。

浅井委員：　ふるさと納税返礼品が今後、増える予定なのか。

大西委員：　ふるさと納税返礼品の国の基準が年々厳しくなっており、返礼品登録を目的にすると、参加事業者が増えないことが考えられるため、どうしたら地域商品が売れるのかを勉強し、進めていく。

野村議長：　消費力や技術力の向上につながると良い。

浅井委員：　「指標４　地域特産物の出荷額」について、洋ランの出荷額が減少している理由はなぜか。

事 務 局：　高齢化による生産者の減少が主な要因の一つである。

浅井委員：　名鉄の各駅で、あるアニメのスタンプラリーを集めるイベントがあった。東海市はランが有名であるのにも関わらず、主な登場人物である「蘭ちゃん」のスタンプではなく、別の登場人物だった。東海市をＰＲできるようコラボができるとよい。

野村議長：　東海市のブランド力を高める取り組みについて、成果が表れるのは時間がかかるが、引き続き頑張ってほしい。

大西委員：　「推進項目２　経営基盤の強化」について、ハローワーク半田と協力して就職フェアを行う。今年度は、星城大学とも協力し、オンライン面接、ＡＩを活用した就職支援を行う。また、会員企業は新卒の人材確保が難しいため、外国人労働者の確保に力を入れている。

「指標２　小規模企業等振興資金」について、貸付相談の件数が減少している。人件費の負担が大きく、設備投資を行えない現状である。会議所においても何が支援できるか検討していきたい。

野村議長：　「指標３　農業関連融資の融資状況」で令和７年度が０件の理由はなぜか。

事 務 局：　同じく、人件費が高くなっていること、資材費の高騰で設備投資ができない状況と推察している。

岡本委員：　今年の１０月に最低賃金が１，１９５円になる。現在働いている人の賃金と新規の就職者の賃金も上げなければならない。人件費の引上げの先行きが見えず、求人を控える事業所が増えてきている。

高卒、中卒の求人募集率がハローワーク半田署管内で減少し、愛知

県下の有効求人倍率は１．２１倍に対して半田署管内で０．７１倍で他の地域よりも低い。東海市の有効求人倍率は０．８４倍で署管中では高い方である。

浅井委員：　ハローワークを利用する女性は多いか。

岡本委員：　女性利用者は特に低い。利用者の平均年齢も上高くなっており６割くらいが４５歳以上。

福尾委員：　小規模企業振興資金について、金融機関のプロパー資金は非常に厳しく、変動金利が主体となっている。長期固定で保証有りの小規模企業振興資金は非常にメリットがある。金融機関でも、もっとアピールをしていきたい。

浅井委員：　事業者は小規模振興資金融資制度を知らないのか。

福尾委員：　一度も利用のない方や、創業したての相談先のわからない方は、制度を知らないことが多い。

浅井委員：　「４　主な取り組み」にある「金融相談会」について、件数は増加した。金融機関での融資の相談件数は増加しているか。お金を借りることは、リスクがある。

福尾委員：　最近の金融機関では、借り入れだけの営業はやっておらず、課題解決の融資がメイン。経営者に会い、事業承継、M&A、マッチング、補助金、人材不足等全ての課題に合った融資商品を提供している。

武内委員：　農機具、生産資材が高騰し、高止まりしている。中東情勢が影響し資材が入ってこない。投資をするにも資材価格高騰や生産者の高齢化がネックとなっている。一方、若い農家、新規就農者は一定数いる。

浅井委員：　食料自給率を上げるよう世間で言われており、本来は屋外で農業を行うところ、屋内で行う農家は増えてきているか。

武内委員：　取り組まれ始めている。高額な設備投資が必要となるため、農家より企業が取り組み始めている。

浅井委員：　高額な設備投資をした農家に補助金を出すこともあるのか。

武内委員：　補助金は、数多くある。対象になれば利用でき、長期的な計画を立てることが大切である。

浅井委員：　推進項目３の「４　主な取り組み」にある「地域職業相談室の企業ＰＲ」について、２年連続で０件の理由は何か。

事 務 局：　庁舎１階市民ホールリニューアル工事を予定しており、令和９年度にはＰＲコーナーを撤去することが決定したため、実施が不可となった。

岡本委員：　「指標１　働き方改革に取り組む事業所」に関連し、新しい指標として、「ユースエール認定」と、「もにす認定」を取り入れてはどうか。

「ユースエール認定」は、若者の労働環境が良好な企業に認定している。毎年認定更新を行い、基準が厳しい。

「もにす認定」は、障がい者雇用の取り組みが優良な企業に認定している。現在、東海市ではユースエール認定企業数は２件（愛知県内では７０件)、もにす認定は１件。（愛知県内では４８件）

浅井委員：　ユースエール認定制度はいつから始まったか。

岡本委員：　平成２９年（２０１７年）から開始。

浅井委員：　認定企業のメリットは何か。

岡本委員：　県の入札時に加点になるため、建設業の登録が多い。

事 務 局：　この２点を次年度以降の補足資料に追加する。

大西委員：　「参考資料　健康経営優良法人認定制度」について、会議所では登録企業の増加に力を入れている。人材確保が困難な中、現社員の退職者を減らし、社員に優しい企業を目指すよう推進している。市内の登録企業数が増えているのは大変良い。

野口委員：　「指標２　女性・高齢者・障がい者の就職人数」について、男性込みの全体の就職人数はどのようか。

岡本委員：　全体として減少している。

求人を探す媒体が増えたため、ハローワークを利用しない就職者が増えている。ハローワークの求人数は減っておらず、数が多いまま推移している。若者をどのように地域の企業に就職してもらうかが今後の課題である。

福尾委員：　若者が利用するのは、転職サイトが多いか。

岡本委員：　転職サイト始め大手の求人サイトはＡＩを活用し、求職の情報を入力するのみで就職先を導き出せる。若者はレスポンスが良い方を好む傾向があり、ハローワークは人海戦術のため、いかにそのスピードに対応するか仕組みを変えなければならない。

福尾委員：　最近では入社時に転職サイトに登録していると言われるほど、転職が当たり前の時代になってきている。企業側もすぐに退職してもらっては困るので、若者や新規就職者に対して丁寧な対応をしている。

岡本委員：　企業からも「ハローワークからの就職者は長く勤めてくれる方が多い。」と言われる。地域密着型といえばハローワークと言われるよう今後も支援したい。

大西委員：　大手求人サイトを利用した際、求人掲載してすぐに５０人程の申込があったが、面接日に近くなるほど申込者が減った。求職者のスピードに事業活動が追い付いていけない。ハローワークでの求人の方がゆっくり時間をかけて判断することができる。

野村議長：　産業振興ビジョンの指標の項目を定めたのが１０年前。内容の見直しが必須と考える。

浅井委員：　「推進項目４　にぎわいの創出」の「指標３　創業者数」について、毎月第４木曜日に創業相談を行っている。最近の傾向として、男性はキッチンカー、女性は美容系が非常に多い。美容系は、創業するにも同業者が多く、競争率が高い。また、自宅で何かやりたいとＡＩセミナー等を受講し、知識を深くしてＳＮＳ代行を行う方も増えている。

以前の創業は、機械の設備投資や、企業が新事業を行うケースが多かったが、近年の創業は、２～３００万円でキッチンカーを改造など低金額の投資が多くある。

また、美容系について、４～５０万程度の美容機械が２～３００万円で売られるなど、消費トラブルにつながるケースが多くあり、創業相談の際に注意喚起している。

野村議長：　にぎわいで言うと、太田川駅西に大きな商業施設ができた。とてもにぎわっている。

浅井委員：　その要因もあり太田川駅周辺でのにぎわいが減ったように感じる。

事 務 局：　太田川駅西の商業施設に、駅の東側にあったいくつかの店舗が移転したが、現在は、以前からの空き店舗にもテナントが入居しそうな動きが見られ、今後のにぎわいに期待している。

野村議長：　「指標４　観光地点等入込客数」について、指標の作成時には、もみじまつり、ユウナルステーションの人数は入っていないが、含んだ

客数はどうか。

事 務 局：　約３万５千人追加になる。

大西委員：　駅周辺の飲食店について、店舗の入れ替わりはあるものの、場所（エリア）としての人気は高い。いろんな業種の店舗で充実してくると、よりにぎわいが増える。大学が来年度開校するので、商売する機会も増える。

浅井委員：　飲食店の創業者は、太田川駅周辺を希望するが、空き店舗がなく、家賃も高いため出店場所が見つけられないケースが多い。そこをフォローできるとよい。

大西委員：　飲食店以外にも駅周辺での出店希望者が多いためテナントの場所が増えてほしい。製造業なども、工場立地のための空き地の問い合わせが非常に多い。現状は、余剰地がほとんどない。

野口委員：　「指標４　観光地点等入込客数」は、イベント中心の数字。天気に左右されるため、指標としてこれでよいかの検討が必要。イベントで多くの方が東海市に来るが継続的、日常的に東海市に足を運んで来てくれる人が増えてほしい。飲食、買い物をするにも東海市にしかないローカルなものがあるとよい。将来的には定住に繋がると思う。

事 務 局：　指標については、次期ビジョンの際には見直しが必要と考えている。

浅井委員：　東海市の観光について調べたとき、聚楽園公園・大仏、細井平洲先生を案内された。平洲記念館は、駅からも遠く不便な場所にあったが、とても内容がよく、施設の対応も非常に良かった。上杉鷹山公の恩師であり、まちづくりにも関わっていた方なので、平洲先生を上手に利用し東海市をアピールするべき。こういったローカルなものを発信することは大切と思う。

浅井委員：　平洲記念館の年間の入込客数はどうか。

事 務 局：　年間約５，５００人。市内の小学生が、校外学習で利用している。

野口委員：　推進項目１の「指標４　地域特産物の出荷額について、東海市のフキは品質が良いため大都市圏の高級料亭に出荷している状況と聞いたことがある。

　ランについても、愛知県は花の生産が日本一、しかし愛知県民は花の消費はかなり低い。地元でいいものを作っているので市内でも消費が

できる環境を作ることが大切ではないか。

野村議長：　他の地域では、コンビニでもその土地の特産品が売られており、気軽に買える状況である。

武内委員：　東海市では、約２０戸のフキ農家がいる。大都市圏からの引き合いが強く、農家の手取りを増やすために高く買ってくれるところに出荷している。現状として、生産量が少ない。量があればいろんな展開ができる。課題の一つである。

(4)　その他【次第　４】

事務局より

次期産業振興ビジョンについて